

鳥取市公共施設の経営基本方針(案)に関する住民説明会 議事録

【日時】平成27年1月8日(木) 19:00～20:15

【会場】人権交流プラザ 2階研修室

【来場者数】15人(うち報道機関7人)

【鳥取市出席者】財産経営課 梶課長、宮谷主幹、加藤主任

【目的】経営基本方針(案)の説明と方針(案)への意見を伺う

1. 財産経営課長あいさつ

2. 報告

鳥取市公共施設の経営基本方針(案)について・・・宮谷主幹

3. 意見交換

(参加者A)

合併の直前に、鹿野町役場で開催された合併フォーラムの場で、竹内市長、各町長の前でハコモノの関係について発言した。

今後、議会室は要らなくなり、職員も減り、人口も減ることから役場の2階を葬儀場にしたらと提案した。民間に貸し出して運営してもらうのがよい、空きスペースの有効活用をするべきと言った。

また、庁舎問題についても、建替えても耐震でも良いが、耐震をまずしなければ、中国の事例のようになってしまう。市庁舎だけ立派なもの作ってもどうなのか、こんな話はないと思う。関連施設を整備し、耐震化等をしていかないといけない。

取り組みがなにせ遅い。こうした施設の統廃合等の話は、市議選の前にしないといけないこと。庁舎が通ったからというように見える。順番が逆である。住民をバカにしていると思う。まずこの問題をクリアしてから、庁舎問題に取り掛かるべき

鹿野町小学校の統合について、統合は賛成である。「あればいい」施設は無駄で、「絶対必要な」施設でないといけない。

災害時の関係もあるが、空いた学校が3つもあり、いつまでもそのままの状態となっているのはどうなのか、ケガしたらどうするのか。

優先順位を考えないと。メンテナンス経費が仮に10万円であれば、2年経ったら倍の経費が必要になる。早く結論を出して、廃止するものは廃止しないといけない。

また、旧体育館を鳥の劇場に貸している。貸すのはいいが、高い公演料を取っている。3,500円であるが、これは営利目的である。それなのに、なぜ、雨漏りするからといって市が対応を行っているのか。

町時代からの体育館は、お金がないから修繕は1/3ずつ隔年でやるというが、これはおかしいと思う。

地元のふるさとミュージックにはお金が出ないのも、おかしい。

市議会で、庁舎の前に、いろんな議論をするべき。統廃合は、見えている問題なのに、一般の人は見えていない。そうしたことを発言した。

地元や市の負担もそうだが、利用者の負担。なにがしかの負担を求めるべきである。自分たちのものとして管理し、意見を言おう、有効活用しようということにいかないといけない。また、ありとあらゆる資料を市民に出さないといけない。

現状は、意識レベルが低いと思う。公共だから、公共なりに使わないといけない。タダではないんですよということである。よく考えてほしい。市はお粗末すぎる。

（参加者 B）

鳥取市の財政について、きちっとここの部署で市民に説明して、市当局・庁舎整備局が言っているような、市の財政は大丈夫じゃないということを説明しないとイケない。

施設の面積を減らさないと、全国平均より多いということ、いま使っている建物には、税金がこのくらい投入されているということを伝えるべき。先ほどもあったが、応分の利用者負担があってしかるべきと思う。そうしたところも含めて、市民に提案しないとイケない。

単に、「こういう問題が起こっているから統合しよう」と言ってもイケない。市民は、総論賛成・各論反対である。議員が市民を説得できるかということ、そうではない。議員は地元の言うことしかきかない。議員が政治力を発揮して、市民を説得ということも期待してはだめであると思う。

あなたたちができることは、真実を積み上げて市民に提示すること。市民が納得すれば、そうすればスムーズに進むと思う。片方で財政は大丈夫と言っていて、こっちでは問題だから減らそうといっても、説得力がない。

私はこっちが本当のことを言っていると思うから、もう少し緻密に市民に訴えて欲しいと思う。

（参加者 C）

私は鳥取市の中心地で生まれて育った。

高校卒業後、東京に行き、デパートで販促の仕事をした。

クリエイター的な役割であるが、作品作りではなく、ビジュアルの仕事をしていた。

その後地元に戻ったが、鳥取のことはわからなくて、歴史や文化も含めて調べた。

聞いた話だと、市庁舎移転問題は、市民の意見を言っても反映されない、投票して、反対多数でも無理強いすると聞いた。

出前座談会をするとホームページにもあるが、でも意見は反映されないと書いてあるため、一体何のためにしているのか不思議に思う。今日の説明会も全然知らなかった。鳥取市ホームページで、「公共施設を見直しています」に入ったが、よくわからなかった。

無駄遣いはやめ、ほかのことにお金を回して欲しいと思う。

文化人では、いずれも鳥取出身者は鳥取で活躍していない。

万葉歴史館など大きな歴史があるが、歴史文化のことを外に伝えていない、文化レベルの低い街とってしまう。

市民アンケートの結果があるが、なぜ最優先が市庁舎なのか。そんな事業はないはずで、どのような商売でも、自分のところは一番最後であるべきではないか。本当にこれは市民アンケートなのか。何を信じたらいいのかと思う。鳥取の中心地も、どう考えてもこのままでいいわけがないが、それなのに庁舎だけにお金をかけるというのはどうしてなのか。

結局、施設の問題もそうしたことをきちんとできていないから起こることだと思う。仁風閣の話も、存続か廃止か一票差であったと聞いており、これも文化のレベルが低いためだと思う。そうした人を育てていないというところ、豊かな人たちを育てていないのではないか。

安心・安全の問題も、先読みしていかないとイケない。現在、以前はなかったような原発や環境のことが問題となっているが、計画は先を読んで対応していかないとイケないのに、現状での対応だけになっている。施設設備のようなお金のかかることは、先読みしていかないと、完成したときには時代遅れになってしまう。

環境への配慮もそうであり、工事の仕方も、いまを鵜呑にするだけではなくて、先のための工事の仕方を、それが今ないのであれば、開発したり研究したりするべき。現状でやってる人たちを、そのまま担当させて計画してもどうなのかと思う。出来上がった時点で古いものになってしまい、きりのないことになってしまう。

先読みをした計画を練って欲しいし、文化の低い街にして欲しくない。そうしたことを考えた公共施設・公共事業にして欲しい。

（財産経営課）

A さんのご意見について、空き施設の活用は工夫しながら、市としても検討しながら進めていく。A さんの言われるとおり 支所の 2 階は空いている部分が多い。

（参加者 A）

遅すぎる。発想が生まれていない。問題を放り投げたまま、10 年も放ったからしにしており、冗談じゃないと思う。もっと以前に、合併したときからこうした頭がないといけないのに、なぜ発想ができないのか。

（財産経営課）

これまでも学校の耐震化や、公民館等を順次耐震化してきたことはご理解をいただきたい。確かに（公共施設経営の）取り組みは昨年からだ、わかったことは昨年 5 月の市報にも掲載している。年末に市庁舎の議決があったからではなく、昨年から出前座談会もしていた。広報が足りないことは事実だが、頑張りたいと思っている。

（参加者 B）

日本海新聞に折り込みを入れてはどうか。公民館はリーフレットを置いているところ少ない。庁舎のチラシは全戸配布された。こっちが重要だと思うが、まったくされない。これは市民に知らせるべきと思うなら、予算を取って 2 回、3 回と折り込みをするべきである。

（財産経営課）

意見として伺います。

C さんは、意見が反映されないと言われたが、情報・意見交換の場として座談会開いていて、それはうちとしてはきちんと受け入れさせてもらっている。座談会は、何かを決める場所ではなく、それはお示ししている。意見を聞かないということはないため、ここは誤解がある部分と思う。

（参加者 D）

初めてこうした場に参加させていただく。正直、鳥取市がこうした方針で向かっていくことを初めて知った。

市有の建物について、どれだけのものがどういう風にどう使われているか、新市域の庁舎は何割が使われているか。残ったところは、実質使われているか。そうした建物の、使わない部分までも冷暖房を入れることは、無駄なコストである。市有建物がいつできて、どういう形でリニューアルされ、今現在はどうかを調べる必要があると思う。

将来的にどうするのか、これは 1 つのマスタープランだと思うが、市ではどの程度のマスタープランを作っているのか。

皆さんの意見を聞いていて、遅きに発したという感はあるが、ただ過去をどうこう言っても仕方がないので、これからスピードアップして、どんどん向かって欲しい。

行政と市民の目線は違うため、どんどんいろんな人の意見を吸い上げて行くべきと思う。広報について、今回の市の取り組みはチラシで初めて知った。私は建設業界だが、知らなかったため、それはなぜか、広報を考えて欲しい。回覧板での周知など、その辺り考えることができないか。

自分なりの意見だが、参考にしてもらえたらと思う。

鳥取市として思うことを、「それはいいね！」というような話をたくさん作って欲しい。目線が違うこともあると思うが、発想の転換が必要である。

もう 1 つ、有識者会議についてだが、何かあれば役所は有識者会議をするが、逃げの一手に見える。有識者会議の委員名簿を見るとみんな偉い方だが、一般市民も引き上げて市民の意見を取り入れるというのがいいと思う。一般市民から見れば逃げに見える。会議で決まったからということで進められるが、決定力が強いように見えるため、市民目線をお願いしたい。

（参加者 B）

有識者会議はそのとおりだと思う。

（財産経営課）

広報の取り組みには努めているつもりである。市報掲載を行い、折込チラシ発行は今回 2 回目である。お手元のリーフレットは、公民館にも配架しており 庁舎 EV にも設置している。努めているつもりだが、なかなか伝わらないところもある。

（参加者 D）

取り組みはいいことだと思う。無駄を省くこと、税金の無駄遣いをしないこと、皆のいろいろな恵をもらいながら取り組むことが大事、どんどん進めて欲しい。間違いがないように今動いていて、これからのことを市民にお示しすること、そうして信頼関係で進んでいくことが大事である。一方的にやるような形が見えてしまうので、堂々と「こうしている」というのを市民にお示しするのがよい。

もう 1 つ、鳥取県も同じようなこと、県有財産の見直しをしている。私は設備についてプロであるが、何年に建物が建って、いつ設備が入って、リニューアルはあるのかということ把握しないといけない。

個々の空調は、15～20 年で耐用年数を迎えるが、機械だから老朽化はどうしようもない。LCC ライフサイクルコストのことがあるため、更新すること、蛍光灯も LED に変えることで電気代を削減し、トータルでコストを削減する取り組みをしないとけない。リニューアルは投資であり、年間でいくらコストを落とすということを考えるべき。県は進んでいる。

市庁舎問題で改修の問題が出たが、県庁は各フロアの空調からすべてをリニューアルしたことがあり、建物自身が、市庁舎と中身がまるっきり違っている。しっかりとメンテナンスを行っているため、行っていない市庁舎と同じ土俵で話をするからおかしくなる。

建物はメンテナンスが必要であるということを言いたい。

（財産経営課）

前回、商工会議所と共催して開催した公開講演会でそういった話があった。商議所会員には通知をしていただき、お知らせしており、特に建築業界に通知をしていただいているところだった。

また、LED への変更も鳥取市はできるところから推進している。

（参加者 A）

自分は大阪などで国のプロジェクトに参加したこともあり、県にもいたことがある。

今後の考えの尺度はどうか。実際、A という施設について、そこで何人が施設を使用したか、利用時間、頻度を調べることをしないとけない。使用されていて、本当に必要なものかを考える

尺度を設けることが大事である。

費用負担についてもそうで、地区や利用者が負担しても残すべきというものは必要な施設と言えると思うが、地元の意向あってもやみくもに残すというのはどうかと思う。地元が費用負担をしてくれるのかというようなことは、投げかけないといけない。

メンテナンス経費も職員の給与も、これくらいかかるがどうしましょうということ、また使用料をこのくらいにしないと残せないなど、具体的に算出し、数字で提示することが、住民への説明にインパクトがある。

（財産経営課）

市も、19 年度に地元の集会所等を譲渡していく方針を出した。それまでも地元で光熱水費は負担してもらおうようお願いし、既にそうしていただいている部分もある。

（参加者 A）

全市ですべき。

（財産経営課）

利用頻度や建物性能を考えながら今後は、施設を残すか転用していくのかを判断する指標を作ること、（この経営基本方針の）1 つの項目としている。

（参加者 A）

取り組みが遅い。

（財産経営課）

来年度からのことであるが、今後は計画（予防）修繕に持っていきたいと考えている。

施設をなくすということが、前に出ている印象を受けたが、サービスを維持しながら、利用の頻度が少ないところを集約する、床面積を削減しながらサービスを維持することを考えていくものであり、なくすのが目的ではない。サービスを維持しながら効率化をすることが目的である。

そうした中で、統合すると、（施設との距離が）遠くなったというようなご不便もあるかもしれないが、それをご理解いただきながら進めたい。

また、もっと住民の皆さんにとって愛着のある施設になっていくように進めていきたいと考えている。

本日、時間の都合上、ご意見をいただけなかった方も、パブコメの方でもご意見をいただけたらと思う。

長時間、充実した時間ありがとうございました。